

道東自動車道（阿寒 IC～釧路西 IC）が 令和6年12月22日(日)に開通しました ～ 釧路と札幌が高規格道路で直結～

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 道路計画課

1. はじめに

道東自動車道は、千歳恵庭 JCT を起点とし釧路別保 IC 及び足寄 IC に至る高速ネットワークです。本道路は国際拠点港湾の苫小牧港等への物流の効率化や、地域間交流の活性化等を目的としており、本別 IC より東側については、北海道開発局が整備を進めております。

令和6年12月22日に開通した阿寒 IC～釧路西 IC は、高速ネットワークの拡充により釧路圏と道央圏・十勝圏、オホーツク圏の連絡機能の強化を図り、大規模災害時の輸送ルートの強化、広域観光の活性化、水産品の流通利便性向上、救急搬送の安定性・速達性向上等を支援することを目的とした事業です。



2. 事業概要

本別 IC～釧路西 IC 間は平成15年度から新直轄方式により、北海道開発局が事業を実施してきましたが、平成21年11月21日に本別 IC～浦幌 IC 間の8 km、平成27年3月29日には浦幌 IC～白糠 IC 間の26 km、平成28年3月12日には白糠 IC～阿寒 IC 間の14 kmが開通しました。そして令和6年12月22日には阿

寒 IC ～釧路西 IC 間の 17km が開通し釧路市街と札幌が高速道路で直結しました。



写真①：道東自動車道工事中の状況（釧路西 IC）

表①：本別 IC ～釧路別保 IC 間の開通年月日

開通年月日	開通区間	延長
H21.11.21	本別 IC ～浦幌 IC	8.0km
H27.3.29	浦幌 IC ～白糠 IC	26.0km
H28.3.12	白糠 IC ～阿寒 IC	14.0km
H28.3.12	釧路西 IC ～釧路東 IC	9.9km
H31.3.09	釧路東 IC ～釧路別保 IC	6.9km
R6.12.22	阿寒 IC ～釧路西 IC	17.0km

3. 工事の概要について

○ 生態系に配慮した道路整備

事業実施にあたっては、環境影響評価書に基づき、環境保全対策の検討を行い、自然環境に配慮しながら工事を実施しました。当該地域においては、日本では主に道東に生息する「タンチョウ」や希少猛禽類、釧路市の天然記念物に指定されている「キタサンショウウオ」といった地域性、希少性の高い生物が多数生息しており、自然再興（ネイチャーポジティブ）の実現の観点から、動植物の生育環境保全を図るため生態系に配慮した道路の整備を推進しております。阿寒 IC ～釧路西 IC 間においても計画路線がキタサンショウウオの生息地を通過する地域は橋梁構造にし、産卵場、生息地の保全に取り組み、また道路供用後のタンチョウや猛禽類のロードキル対策として、橋梁区間に防鳥ポールを設置するなど生態系に配慮した道路整備をおこなっております。防鳥ポールは濃霧や夕暮れ時用の対策に視認性を高める措置として、走行車両のライトを利用した赤・黄色の高輝度反射シートで視認性を補っております。



写真②：ロードキル対策（防鳥ポール、夜間の反射状況）

○ 工事概要

阿寒 IC ～釧路西 IC 間は、平野部と丘陵地を通過し、全区間の約 75% が軟弱地盤上の盛土区間で計画されており、平野部は層厚 15 ～ 40m 程度の厚い軟弱層（泥炭性軟弱地盤）が広範囲に形成されています。このような軟弱地盤上に盛土や橋梁等の構造物を構築する際には課題があり、大きくは軟弱地盤の圧密沈下、すべり破壊が挙げられます。

そこで、盛土部の軟弱地盤対策工として、まず土工による沈下対策工である「载荷盛土」を施工しています。「载荷盛土」を施工する際の安定対策工としては、盛土破壊を起こさせないことが重要で、軟弱地盤の強度を増加させることで盛土の安定性を確保する「緩速载荷工法」を用いています。また、沈下が収束するまでに何十年もかかってしまう箇所では、供用までの期間を短縮するため、軟弱地盤にプラスチック製の薄い排水材を打設し圧密排水を促す「バーチカルドレーン工法」を用いました。



写真③：軟弱地盤対策工（バーチカルドレーン工法）

4. 開通記念イベントや開通式典等の開催

令和6年7月11日に見学場所である道東自動車道釧路西ICから約160km遠方の、羅臼小学校から修学旅行で来られた6年生を対象とした現場見学会を行いました。児童は事業の説明を受けた後、タブレットを用いたAR（拡張現実）で現場の完成予想を疑似体験するなどし、参加した児童からは「新しい道路を造ることで、移動手段も広がる」「高速道路だから速く移動できるので、羅臼に来る人も増えると思う」といった期待の声や、「思っていた以上に道路が広くて車で走ってみたい」といった声など、開通を心待ちにする子どもたちの素直な感想を聞くことができました。



写真④：現場見学会（事業説明）



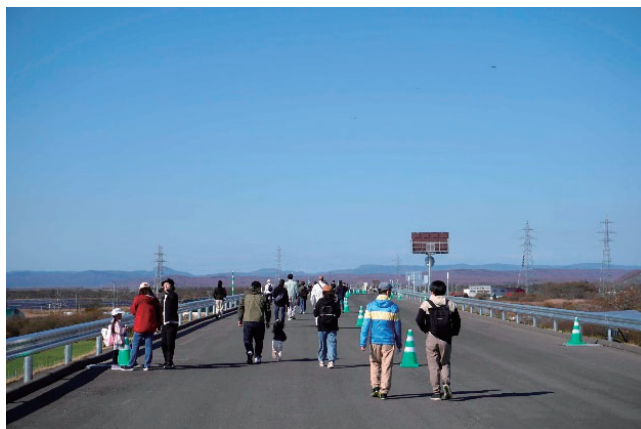
写真⑤：現場見学会（AR体験）

令和6年10月26日には、ウェルカム道東道！！オールくしろ魅力発信協議会が主催となり、開通前の道東自動車道を歩く「くしろハイウェイウォーク」を開催しました。多数の応募から抽選で選ばれた100名の参加者が、開通後には歩くことができない高速道路上を思い思いにウォーキングしました。ゴール後

は、観光PRブースやご当地キャラクターによるおもてなしもあり、素晴らしい秋晴れの中、イベントを楽しんでいただきました。



写真⑥スタート前の記念撮影



写真⑦ウォーキングの様子

また令和6年12月8日には、開通区間の12の橋梁へ釧路市内の小中学生に揮毫していただいた「橋名板」を取り付ける、「取付け会」を北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会との共催により開催しました。当日は揮毫した児童・生徒が保護者とともに参加し、自らの手でしっかりとボルトを締めて「橋名板」を取り付けました。



写真⑧橋名板取り付け会の様子



写真⑨橋名板取り付け会の様子

開通日である令和6年12月22日には、地元関係者など約250名が出席して、テープカットやくす玉開披など「開通記念式」を北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会との共催により執り行いました。屋内での記念式終了後に「通り初め」を行い、道東自動車道の開通を祝いました。そして、同日15時に一般供用を開始し釧路と札幌が高速道路で直結しました。



写真⑩「開通記念式」



写真⑪「通り初め」

5. 道東自動車による整備効果

阿寒 IC ～釧路西 IC の開通により、災害時の交通確保、広域的な観光の活性化、物流ネットワーク構築、医療施設への速達性向上などの効果が期待されます。

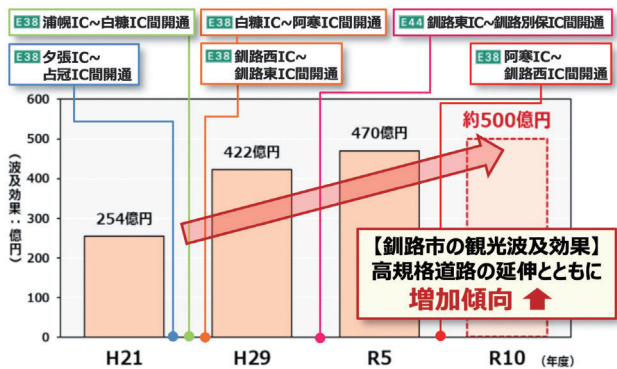
○ 大規模災害時の輸送ルートの強化

釧路・根室地域は、今後 30 年以内に震度 6 以上の揺れに見舞われる確率が非常に高い地域です。大規模地震による大きな津波が発生した際は、市街地や国道の浸水が予想されており、津波発生時における確実な緊急輸送道路の確保が必要です。今回の開通により津波浸水エリアを回避し、釧路市内へのアクセスが可能となり、被災地への道路啓開や救援物資の輸送などの迅速な復旧活動を支援します。



○ 広域的な観光の活性化

釧路・根室地域では、『釧路湿原』や、世界三大夕日と言われる『幣舞橋の夕日』、日本最東端の『納沙布岬』、世界有数の透明度を誇る『摩周湖』など、多くの観光資源が点在しています。阿寒 IC ～釧路西 IC の開通により空港と観光地間の定時性・速達性が向上することで、釧路空港を拠点とした広域的な観光の活性化も期待されます。



図③：釧路市の観光消費による経済波及効果

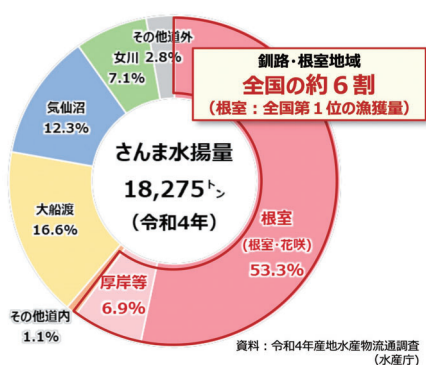
資料：第2期釧路市観光振興ビジョン（釧路市）



図④：釧路地域の魅力的な観光地

○ 水産品の流通利便性向上

北海道の中でも、特に漁業が盛んな釧路・根室地域は生さんまのシェアが全国の約6割を占め、全国1位の漁獲量を誇ります（図⑤）。生さんまは、道内はもとより400km以上離れた苫小牧港、小樽港を経由して道外へ出荷されています。開通により、漁業関係者の方からは「阿寒IC～釧路西ICの開通により、輸送時間が短縮されたことで、厚岸港からの出発時間を遅くでき、その分、市場で作業できる時間が増えました。その結果、生鮮品のさんまやいわしは発泡スチロールで100ケース分これまでよりも多く運ぶことが可能になりました。」など、開通の恩恵があるとの声をいただいております。



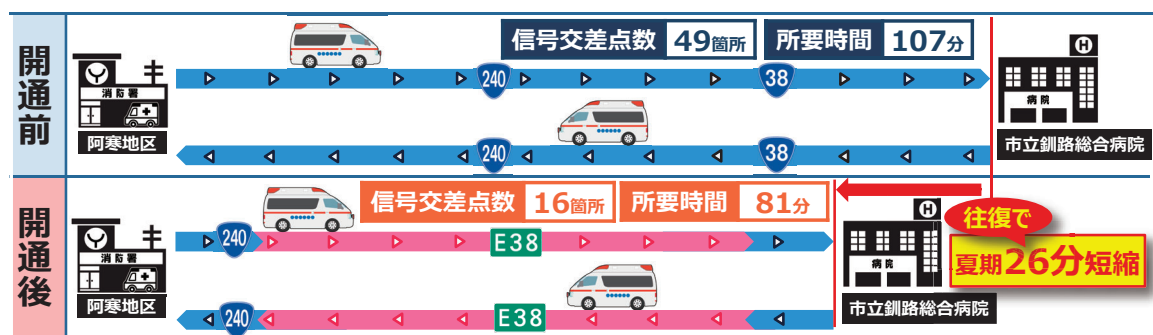
図⑤：生さんまの全国シェア



図⑥：生さんまの道外出荷輸送ルート

○ 救急搬送の安定性・速達性向上

釧路・根室地域で唯一の三次医療施設である市立釧路総合病院への救急搬送について、阿寒地区から市立釧路総合病院の搬送で道東自動車道を利用した場合、信号交差点数は49箇所から16箇所となり、信号でのSTOP & GOが減少し、患者への負担軽減が図られます。また救急車の往復時間の短縮による確実な救急搬送体制の確保を支援するなど、自治体や地域の方々から1日も早い開通が望まれていたところです。



図⑦：救急搬送での効果

6. 開通後の交通状況

阿寒IC～釧路西ICの開通後の24時間交通量（1週間平均）は、阿寒IC～釧路空港IC間が約5,810台、釧路空港IC～釧路西IC間が約7,040台でした。阿寒IC～釧路西ICの開通に伴い、札幌市から釧路市までが直結したことにより、開通区間の24時間交通量（1週間平均）は、前年と比較して約1割～約2割増加しました。また特定の調査日での12時間交通量の比較結果からは、開通区間に並行する一般道を利用して交通の約6割が道東自動車道に転換していました。

開通区間の利用者からは、阿寒IC～釧路西ICの開通による物流の労務時間短縮や定時性向上、救急搬送時間の短縮、観光地へのアクセス性向上等、様々な声が寄せられています。



● 道東自動車道延伸による交通量の変化 (台/日)



図⑧：道東自動車道の区間別交通量の変化

7. おわりに

今回の開通により、釧路市と札幌市の片道の所要時間は約4時間となり、全線に渡り一般道を通行した場合と比べて、往復で約5時間の短縮となります。また北海道内で唯一全線開通している深川留萌道の終点で、日本海に面する留萌地域とも高規格道路を通じてつながり、両地域が結ばれることで大きな圏域になり、さらなる交流活性化も期待されております。また、釧路空港 IC から約5kmの距離にある「釧路空港」は、新千歳空港・丘珠空港だけでなく、羽田空港にも定期便が就航していますので、全国各地から釧路空港を使った道東方面へのアクセスが大変便利になります。ますます近くなった釧路・根室地域にお越しいただき、魅力たっぷりの「ひがし北海道」をご堪能ください。



写真⑫開通後の状況（釧路西 IC）



写真⑬開通後の状況（釧路空港 IC）